

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	ひまわり		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 20日		2026年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 20日		2026年 3月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	★車椅子やバギーでも安全に過ごせる環境づくり 新築移転により、以前の課題だったスペースの狭さが解消され、車椅子やバギーのお子様でも比較的ゆったりと過ごせるようになり、また小上がりが広がったことでゆっくりと休むなど、安全・快適に活動、休息できる空間が確保できていること。	★ご家族の負担を増やさない形でのサポート 日々のケアでお忙しいご家族の負担にならないよう、参加必須の保護者会などはあえて行っていないが、日々の送迎時での相談対応や、「ひまわりたより」での情報発信を大切にしている。	★スタッフ間のスキルと知識の共有（PDCAの推進） 日々の業務に追われがちだが、今後は医療的ケアや支援技術について、スタッフ同士で学び合う機会（オンライン学習など）を少しずつ増やし、事業所全体の資質向上に繋げたい。
2	★保護者様との日々の細やかなコミュニケーション 送迎時の会話や連絡帳、公式LINEなどを通じて、その日の些細な体調の変化や活動の様子を保護者様と共有しやすい、風通しの良い関係性が築けていること。	★小さな変化を見逃さないチームでの見守り スタッフ間で声をかけ合い、ヒヤリハットや体調の違和感などあれば共有するようにしている。安全第一で療育にあたるよう意識している。	★保護者様への「役立つ情報提供」の模索 現在のお便りやLINEでの発信に加え、ご家庭での介助の工夫や防犯・防災の備えなど、ご家族の生活が少しでも楽になるような情報提供のあり方をさらに検討していく。
3	★その日の体調に合わせた柔軟な支援 重度の障がいや医療的ケアがあっても無理をさせず、毎日のバイタルチェックや表情から体調を読み取り、スタッフ間で相談しながらその子に合ったペースで支援できていること。	★「自分らしさ」を大切に活動の工夫 「毎日を自分らしく、毎日を豊かに」という理念のもと、その時の体調を見ながら、活動がいつも同じにならないよう、現場のスタッフでアイデアを出し合っている。	★関係機関からの客観的なアドバイスの活用 公式な第三者評価の受審は難しいが、地域の相談支援専門員や主治医、学校などとさらに連携を深め、外部からの客観的な視点や助言を日々の支援の振り返り（業務改善）に活かしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全職員が同席する形での、支援前後の情報共有・打ち合わせの実施	★勤務形態と送迎業務による物理的な制約 学校等への送迎時間が児童によって異なり、スタッフの出退勤時間もバラバラにならざるを得ないため、支援の開始前・終了後に全スタッフが同じ場所に集まることが物理的に不可能であるため。	★時間差を補う「確実な引き継ぎ体制」の構築 申し送りノート、ホワイトボード、チャットツール等の記録媒体の活用ルールを再整備し、ヒヤリハットや児童の小さな変化が全スタッフへ確実に伝達される仕組みを徹底する。
2	放課後児童クラブや地域住民等との直接的・積極的な交流機会の創出	★感染症リスクと安全確保の壁 医療的ケア児や重症心身障がい児にとって、不特定多数との接触は感染症の重症化リスクが極めて高く、また不測の事態における医療機器の安全確保の観点からも、大規模な交流行事の実施は困難であるため。	★防災の観点を取り入れた地域連携（開かれた事業所づくり） 行事への招待に代わる地域貢献として、災害時の備えを目的とした町内会・近隣住民へのご挨拶や情報共有を行い、地域の中で孤立しない・理解を得られる関係性を構築する。
3	保護者同士がまとまって情報交換を行う公式な場（父母の会など）の提供	★ご家族の日常的な介護負担の大きさ 日々のケアや通院等でご家族の身体的・時間的な負担が大きいため、特定の時間や場所に集まっていただく形式の行事や会議は、かえってご家族の疲労を招く要因となり得るため。	★日常の中での自然な保護者間交流のサポート 公式な保護者会は開かずとも、スタッフがハブ（仲介役）となり、送迎のタイミング等で同じ悩みを持つご家族同士を自然な形で繋ぐなど、負担のない情報交換の場を意識的にサポートしていく。